

月刊 やちまなこ

2014.11.15 発行

No. 204

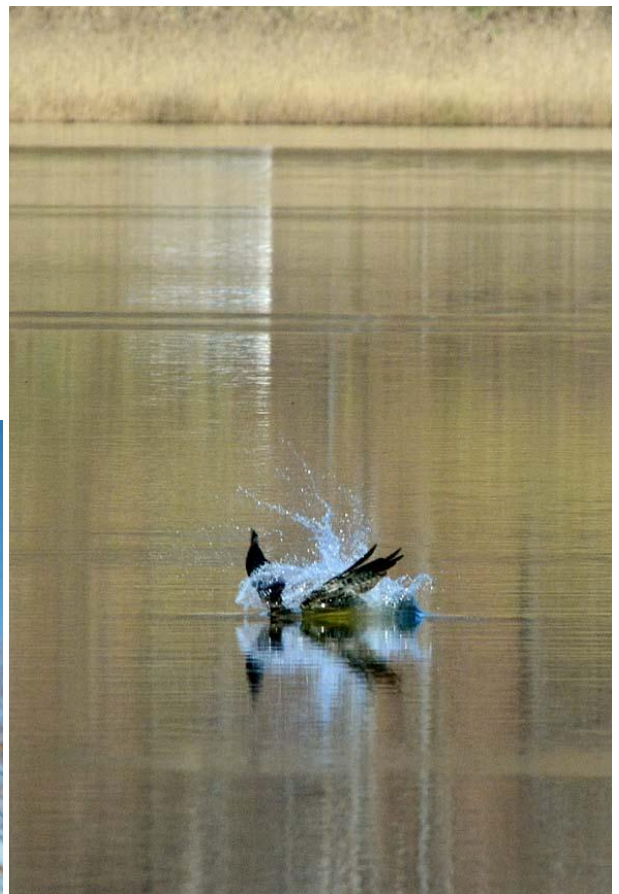
11 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



湿原散歩

湖からバシャ、バシャと音がした。ミサゴが魚を捕らえようとしたが、失敗して再び上空へ、旋回しながら空中で静止するホバリング飛行をしては急降下し水面に突入するが、またも失敗。結局5回目にして鮒を捕らえ、林の方へ飛んで行った。



コッタロ川と湿原のほとりから

173 11月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

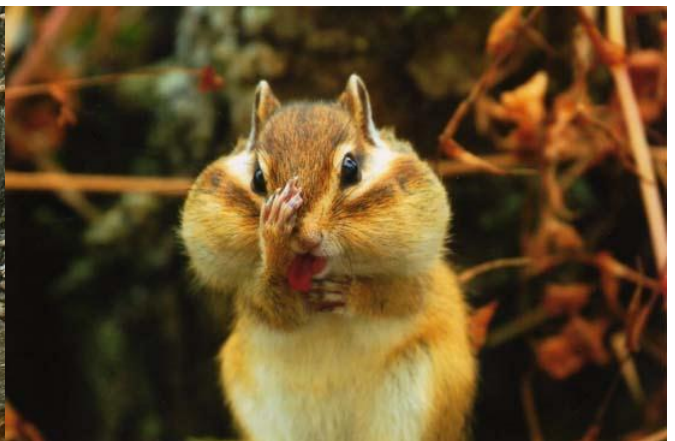
透明な風が吹き抜ける頃となりました。

冬の使者達の“澄み渡る空を切り裂くV字行”は、この時季ならではの風物詩で、2014年もいよいよ終盤にさしかかっていることを実感させられます。長居をしてくれた暖かい晩秋の恵みは、何と云っても庭の楓の鮮やかな紅葉を丹頂等の白が引きたててかもし出す絶妙なハーモニーで、小春日和ののどかなひとコマを御覧下さい。

一方、コッタロ川で丹頂用のエサの魚を釣っていると、川床に動く物を見つけ、それがエゾアカガエルであるのに気付く迄、ちょっとした？が邪魔をして目をこらしたことでした。間違いのない！！暖秋とは云え、朝の気温は氷点下、日中も+10℃になればラッキー！な昨今、水中遊泳とは……。自然界の不可思議と、したたかな知られざる一面を垣間見た思いです。

ところで、9月20日から居付いているエゾシマリス♀は、10月4日に会った♂と番になって交尾を繰り返しておりましたが、11月に入るとバードテーブルに置かれた常連野鳥用のエサ箱への往復回数も減って、9日にはわずか2度ばかり。天敵である丹頂に狙われつつも、危機一髪、箱から逃れてセーフ！の場面もしばしば、目が離せませなんだ。本日（10日）も、この原稿を認めている8:20'に巣穴から出てまいりました。因みに今朝+3℃で小雨の降る中、あと何日出てこられることやら……。 “シマリスの貯食おかしやほほ袋”。このペアが消費した今日迄のヒマワリの実はいくつ？ 18kg+α（自然発芽した庭の畑の物）で、驚くほどあちらこちらの土の中に埋めてあり、すでに20～30本位ずつ発芽して10cm余りに育っていたので気付かされた次第。来春の子孫繁栄を祈ることにいたしましょう。

さて、もうすっかり敷もみじとなってしまった色葉楓も、未だ黄や紅が雨にぬれて蘇り、たまたまきこえてきたアルペオーネ・ソナタ（シューベルト作）の時節を得た調べにうっとり。“しめやかに大地を包む錦哉”。



湿原の住人たち その164

ミソサザイ

ミソサザイは一年を通して生息する鳥で、山のふもとに移動してくる秋以降は、やちぼうずのまわりや湖岸の水辺で、餌を探しながら、ちょこちょこ動き回っている姿がみられます。全長11cmと小さく、褐色地に黒い縞模様の姿はあまり目立ちませんが、短めの尾羽をピンと立てた右のポーズをよくするので、シルエットを覚えておけば探しやすいかもしれません。アイヌ語名トシリポクンカムイ (tosir-pok-un-kamuy) には (川岸の下の穴・の下・に入る・神) の意味があるそうです。



手作りを楽しむ秋のひととき・・・蜜ろうそく作りとムックリ作りを開催。



溶かした蜜ろうに糸を何度も浸して、直径1～2cmの太さのものを作りました。この他、型に流し込む方法やシートを丸める方法で作りました。自然からのおすそわけであるミツロウで作ったろうそくは、油煙がでなくてやさしい灯りが魅力です。手作りの蜜ろうそくでクリスマスを演出できますね。

10月18日「蜜ろうそくを作ろう」の様子。

アイヌの人たちが使っていた楽器、ムックリ（口琴）を作りました。当日は工房サルンパの諏訪良光さんを講師に、竹材を彫刻刃で削り作りました。特に振動させて音の出る部分は慎重に削り、何度も手に当てて音を確かめながら作業を進めました。細かな部分の仕上げは諏訪さんに調整してもらい、ムックリを完成させました。最後に世界にある口琴について話をしてもらい、行事を終えました。



11月1日「ムックリを作ろう」の様子。

つぼちの塘路周辺うろうろ日記 Vol.77「元村にいた酒豪たち？」

今現在、あるこっとの玄関脇で、遺跡の発掘調査を行なっています。

あるこっことや郷土館を含む元村地区は、ほぼ全体が遺跡となっている地域で、沖縄時代の土器や石器が出土しています。しかし実はこれまでの調査中に出土した遺物で最も多いのは、明治時代に使われた焼酎徳利です。

これは今回の発掘調査でも同様でした。茶碗や皿はあまり見つからず、徳利の破片しか出土しません。これはよく考えると異常な現象で、ここの人は焼酎を飲んで生きていたと思えるほど偏っています。現在でも徳利破片は膨大にあり、塘路湖畔を歩けば波打ち際で簡単に拾う事が出来ます。

なぜ元村に徳利片が異常にあるのか、この説明は未だについていません。元村地域の歴史を紐解くと、明治時代に監獄の建物を建てる為の製材小屋がたくさん作られ、多くの桎梏き職人が作業をしたとの記録があります。彼らが仕事終わりに、塘路湖畔を眺めて焼酎を飲みながら語り合っていたのかもしれませんが。

坪岡 始 (標茶町郷土館学芸員)



11・12月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

リースを作ろう

〔日時〕 12/6 (土) 13:00~15:00

〔定員・参加料〕 10名 500円（材料費）

〔場所〕 塘路湖エコミュージアムセンター

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪申し込み問い合わせは 塘路湖エコミュージアムセンターまで TEL 015-487-3003

リースを作ろう

〔日時〕 11/30（日）13：00～15：00

初冬の湿原ハイク

〔日時〕 12/7（日）10：00～12：00

申し込み問い合わせは 温根内ビジターセンターまで TEL 0154-65-2323

塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(10/16)コクワとカツラの黄葉 (10/19)キヌガサギク、アカツメクサ、ヒメジョオン(10/25)シナノキの実、芽を出したドングリ、エゾウコギの実 (11/9)フッキソウの実、ツルウメモドキの実、カラフトイバラの実 (11/13)しなびたヤマブドウの実、ミズバショウの芽、カラコギカエデのタネ

【鳥】(10/19) ウミウ、アオサギ、ユリカモメ、ヒドリガモ、ヒヨドリ、オオハクチョウ (10/23) ヒシクイとマガン
(11/1) オオバン (11/2) カワアイサの群れ約300羽、ホオジロガモ (11/7) ミコアイサ (11/8) オオワシ、ミサ
ゴ、タンチョウの親子、ミソサザイ (11/9) アカエリカイツブリ、オジロワシ、アカゲラ、カワセミ (11/11) モズ、
キハダの実を食べるムクドリ

【その他】(10/21)道路を横断するエゾアカガエル (11/1)エルタテハ (11/8)アキアカネ、エゾシカの死骸、エゾリス、キタキツネ (11/11)エゾシカ

- 11月1日から冬季開館時間になりました。閉館時間は1時間早い午後4時です。
- 13日初雪が降りました。車を運転する方は、エゾシカなどの野生動物の路上横断や日蔭部分のブラックアイスバーンに十分気を付けてください。

◆日出・日入時間 11/15(6:14, 16:00). 11/30(6:32, 15:50). 12/14(6:45, 15:48)



熟したフッキソウの実

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこつと

☎088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail: emc@hokkai.or.jp

開館時間 10:00～17:00 (11月～3月は16:00まで)

休館日:毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料